



1 力作を家族に紹介。2 伝統を肌で感じた陶芸体験。3 盤上で静かな頭脳戦を展開。4 鍛えたノドで観客を魅了した歌謡・詩吟の出演者。5 日本の「わび」「さび」を伝授。6 稽古の成果を舞台上で披露。7 軽快なリズムに乗ってダンサーたちが全身で表現。8 朗々とした声が響いた謡曲・仕舞の舞台。9 今回初の、日本デザイナー学院の学生による似顔絵コーナー。

住民課 環境衛生係からのご案内

**ごみの野焼き(不適正焼却)は違法です!**  
最近、ごみの野焼き(不適正焼却)に関する苦情や、野焼きを原因とする火災などが頻発しています。屋外でごみを燃やすと悪臭や煙が発生し、近隣住民とのトラブルや有害物質による健康への影響も心配されます。また、冬季は空気が乾燥しているため、火災へとつながる危険性もあります。野焼きは以下の例外を除き法律で禁止されています。法律に反して悪質な野焼きを行った場合は、5年以下の懲役もしくは1,000万円以下の罰金など厳しく処せられます。畑や庭から出た草木を処理する際は、近隣住民や健康への十分な配慮をお願いします。今後は、土・日・祝日においても、環境衛生係が野焼き禁止の広報パトロールを実施しますので、ご理解とご協力をお願いします。

- 【焼却禁止の例外】
- ▶ 川掃除、道掃除で出た草木の焼却
  - ▶ 草取りや庭木の剪定で出た草木の焼却
  - ▶ 稲わらや農作業の際に刈った雑草、伐採した木の枝などの焼却
  - ▶ どんど焼きなどの行事を行なうための焼却
  - ▶ 暖をとるためのたき火、キャンプファイヤー
- 問 住民課環境衛生係 ☎22-7761

ame change

福智町では、人権と福祉が大切にされる明るく住みよい町づくりを目指して、あらゆる差別の解消に向けた啓発運動や講演会などの取り組みを進めています。その拠点として、長年みなさんに愛されてきた「同和対策研修センター」を、よりみなさんに親しまれるようにとの願いを込めて、平成27年4月から「福智町人権のまちづくり館」へと名称を変更します。地域のつながりをさらに深める場になります。これからも多彩な催しを開いていきます。みなさんお気軽にご利用ください。



講演会などのイベント以外でも利用できます

町民の絆がさらに深まる交流の場を目指して

「福智町人権のまちづくり館」へ改称

outdoor incineration

インフォメーション & ニュース in FUKUCHI

Writing Contest

次代を担う中学生に人権感覚を身につけてもらおうと、昭和56年から行われている「全国中学生人権作文コンテスト」。その県大会で奨励賞を獲得した福島美さん(金田中)への伝達式が、11月12日に地域交流センターで行われました。福島さんは「いじめのない社会への願いを込めて書きました。思いが評価されてうれしかったです」と、栄えある受賞に頬を緩めていました。なお、式典では中村亜美華さん(金田中)・本田真子さん(赤池中)にも町長表彰が贈られました。問 人権同和対策課 ☎22-7764



少しはにかみながら賞状を受け取る福島さん

全国中学生人権作文コンテスト

鋭い人権感覚が県大会で高評価

福智のまちづくりに心強いパートナー

平成25年1月、「死ぬまでに行ってみたい世界の図書館15」に選出された、長野県の小布施町立図書館「まちとしょテラス」。同図書館の設立・運営に携わり、初代館長を務めた花井裕一郎さんが10月1日から「福智町の図書館に関するアドバイザー」に就任しました。全国各地から講演やアドバイザー就任の依頼が殺到している中、「ずっと、生まれ育った筑豊でまちづくりのお手伝いをしたかった。経験を生かし町に貢献できれば」と、筑豊地区初となる図書アドバイザーの就任を快諾。今後、図書の最前線で活躍する花井さんの経験を、施設の管理・運営やスタッフの育成などの図書業務に活用しながら、図書を通じたまちづくりを推進していきます。

PROFILE: Yuichiro Hanai

鞍手郡出身。演出家。大学進学後、テレビ番組の演出を手がける。番組企画がきっかけで、小布施町のまちづくりに興味をひかれ、小布施町立図書館館長に就任。退任後、全国のまちづくり活動にアドバイザーとして携わる。



問 生涯学習課 ☎22-4100

ooks adviser

図書アドバイザーに花井氏就任

Pickup Topics

●2014 福智町文化祭  
主催/福智町文化連盟  
**文化の結晶  
町を彩る**

作者の技巧が輝く多彩な展示、出演者が感性を表現したステージの数々——。11月1日から30日にかけて催された文化祭で、町のアーティストたちがふるさと・福智を鮮やかに彩りました。その様子を写真でお届けします。



「芸術の秋」深まる11月。町内各地で文化の祭典が行われ、アーティストたちが磨き抜いた技術や表現を披露しました。11月1日から2日間にかけて行われた「作品展示」では、金田分館と金田体育館に3千725点もの書画や陶芸品などの力作が展示され、2千人を超す来場者を魅了。出店や体験コーナーなども充実し、来場者の五感を刺激しました。11月2日には「歌謡・詩吟発表会」が地域交流センターで行われ、83人の出演者たちが自慢のノドを披露。また、「日舞・民謡」「リズムダンス」「謡曲・仕舞」の芸能発表会では、出演者が日々の稽古の成果を舞台上で余すことなく発揮。その磨き抜かれた演舞に、会場から惜しみない拍手が送られていました。11月



絵画や書、生け花、手芸、そして町を代表する伝統的工芸品の上野焼などがズラリと並んだ展示会場には、2日間で延べ2千人が来場。訪れた人は町のアーティストの作品に、身も心も引き込まれていました。

16日の「囲碁大会」では腕自慢の棋士たちが練り上げた戦略を競い合い、盤上で静かな熱戦を繰り広げていました。こうして一か月にわたって催された文化祭。輝いた文化の結晶は来場者の感性を照らし、鮮やかな彩りを添えました。※11月30日の「ふれあいコンサート」の模様は1月号に掲載予定です。